

和紙壁紙 ■ 施工方法マニュアル ■

WASHI WALL COVERINGS : GUIDE FOR CONSTRUCTION

標準施工方法 GENERAL GUIDE FOR CONSTRUCTION

該当商品：

アワガミファクトリー インテリア和紙 の下記の商品に該当しています。

- 棕紹
- 塵
- 楮
- 玄
- 藁
- 万葉
- 雲龍

【はじめに】

このマニュアルは、和紙壁紙を美しく貼って頂くためのものです。

和紙壁紙は、施工時の気温・湿度等、自然環境の影響を強く受けます。また、仕上りの状態は接着剤、下地調整、および施工技法によって成否が分かりますので、この説明書をよくお読みになり、標準施工方法に基づいた施工を行っていただけるようよろしくお願い申し上げます。

また、棕櫚・芭蕉シリーズには大きな天然素材（稲藁・芭蕉等）が漉き込んでいるため、和紙壁紙のお取り扱いには充分にご注意頂き、施工貼付け時には、柔らかいなで刷毛をご使用いただくよう注意が必要です。予めご了承ください。

【接着剤】

接着剤は品質・特性に合ったものを選択し、濃度・塗布量の調整を行ってください。

ゼロホルムで紙壁紙対応の糊材を推奨

【下地調整】

施工の基本は下地調整にあります。不十分な下地調整では、和紙壁紙が下地のアクを吸い上げてしまい、変色やカビ発生の原因となります。

〈 一般下地（石膏ボード、ベニヤなど） 〉

- ・ 丹念にパテ処理、サンダーがけ等を行ってください。
- ・ パテ処理を行った後、シーラー処理を行ってください。
- ・ パテ処理及びシーラー処理を行った箇所は、充分乾燥してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・カビの原因となります。
- ・ ネジ・釘類は突起を完全に沈め、必ずサビ止めを行ってください。

〈 モルタル、コンクリート下地 〉

- ・ モルタル・コンクリート等の湿式下地は、充分乾燥してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・カビの原因となります。
- ・ コンクリートの下地には多数の気孔がある為、糊の水分を急激に吸収し、同時に空気を表面に押し出します。A-WALLは気密性が高い為、下地表面と壁紙の間に押し出された空気が溜まり、空気膨れを発生させる場合があります。それを防止するために、モルタル・コンクリート下地の表面に皮膜をつくる必要があります。
- ・ 下地の水分・気孔率・表面性・アルカリ度などの違いにより、シーラーの種類・濃度（希釈率）・塗布方法（回数）、などそれぞれ適性が異なります。一度試し貼りを行い、処理不足と思われる時はシーラーの濃度を高くし、重ね塗り（三回塗り）を行ってください。

〈 リフォームの場合（壁紙の貼り替え下地） 〉

- ・ 前の壁紙の裏打紙が残っている下地では、浮きや剥がれがないことを確認してください。裏打紙が浮いている場合は、残紙を剥がしてから施工してください。目開きの原因となります。
- ・ 油分、汚れを拭き取り、必ずシーラー処理を行ってください。

【糊の配合と塗布量】

- ・ 紙は、水分の影響で収縮しますので、薄めの糊を使用されますと、目開き、アイハギの原因となります。糊は濃い目で塗布量は少なめにしてください。
- ・ 塗布量は120～140g/m²を目安とし、均一となるように塗布してください。
- ・ 乾燥時や夏場の場合、糊を多めに塗布してください。湿度が高めの時や梅雨時の場合、糊はやや少なめに塗布してください。

【糊つけ・オープンタイム】

- ・ ジョイントカットの際、石膏ボードを傷つけないように下敷きテープを下敷きとして使用してください。取り付けはジョイントカットテープ同様に糊付け機にセットしてください。
- ・ 糊付けの後の折りたたみは、折りぐせがつかないように大きく緩やかにたたんでください。重ね置きしないでください。
- ・ 施工可能時間は40分を目安にしてください。オープンタイム2時間まで可能ですが、紙の性質上、糊付け後30～60分で貼り付けを完了しないと折りジワの原因になります。

【貼りつけ】

① 撫で刷毛・エア抜き

撫で刷毛時のエア抜きは縦方向に行うようにしていただき、確実にエアを抜くように処理してください。極端に強く横方向に処理されますと、目すき(目開き)の原因になります。



② ジョイントのカット

4～5枚貼ってからジョイントをカットします(接着強度が増した時点でカットするので、目開きが起こりにくい)。



③ ジョイント(重ね切りの場合)

石膏ボード下地で重ね切りを行う場合は、石膏ボードの表層紙まで切り込まないように注意行ってください。また、木製定規の長いもの(1m)を使用し、カッターの刃は定規に対して垂直にし、ねかせるように作業を行ってください。薄刃のカッターを使用します。石膏ボードの表層紙を深く切り込んだ場合や、カッターが垂直に入っていない場合、目開きの原因になります。下敷きテープを下敷きとして使用してください。貼り替え工事に際しては、ビニル壁紙と同様にジョイント部には必ずジョイント補強テープを使用してください。

紙壁紙は伝統的な重ね張りが最も適切な施工方法です。重ね張りの場合は、8～10ミリ重ねが適当です。



④ 傷がついたとき

ボードに傷が付いたときには、ボード面にジョイント補強テープを伏せ込みます。ボードに傷が付き、ジョイント補強テープを入れずにおさめた時、材料にしめりがある間は目開きは起きませんが、施工後4～5時間でジョイントの目開きが起きます。特にボードの傷にご注意ください。



⑤ ローラー掛け

ジョイント部は軽く押さえる程度でローラーを斜め掛けに均等に動かしてください。

【出入隅の場合】

① 柱の中心A点に壁紙の中央部を合わせるようにして貼り付けます。



② 柱の両サイドへシワが入らないよう貼り付けます。



③ 角に空気が残らないようにしてください。その場合も無理に横方向へ引っ張らないで縦、斜め方向に撫でつけてください。

※柱や壁面の下地に湾曲などの変形がある場合や材質違いの入り隅コーナー部は壁紙をそこでジョイントしてください。